

仮想化環境でのお悩みを解決

## 日立ストレージとRed Hatの連携ソリューション

### ◆ 利用されている仮想化基盤について、こんなお悩みはありませんか？

- ・ 利用バージョンのサポート終了時期が早まり、計画の見直しが必要
- ・ ライセンス体系の変更でコストが増加し、必要な機能のみの選択が必要
- ・ VM (仮想マシン)とコンテナを別々に管理しており、統合運用が必要



**Red Hat**

VMとコンテナを統合運用可能な次世代基盤  
「Red Hat OpenShift Virtualization」で解決

安心して  
継続的に

Red Hatなら  
セキュリティ・機能改善を  
継続提供

必要な分だけ  
無駄なく

サブスクリプションモデルで  
必要な機能のみ  
選択可能

同じプラット  
フォームで一元管理

VMとコンテナの統合運用

日立ストレージと組み合わせれば、  
「移行迅速化」「業務継続」「管理効率化」の  
3つの機能ポイントを兼ね備えたソリューションを実現

ポイント1  
移行迅速化

VM移行時の業務停止時間  
を最小限に抑える



\*1

ポイント3  
管理効率化

ストレージ管理者に依頼せず  
すぐに利用可能

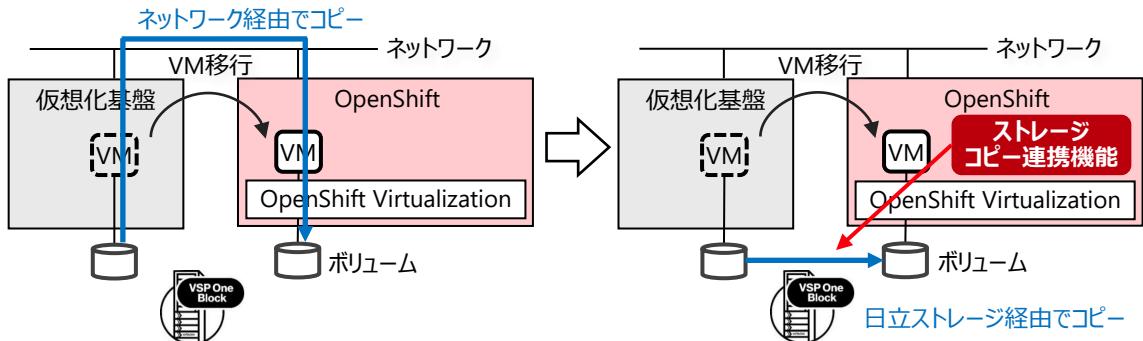
ポイント2  
業務継続

障害時は自動で復旧し  
すぐに業務再開可能

## ◆ 日立ストレージとRed Hatの連携ソリューション 機能ポイント

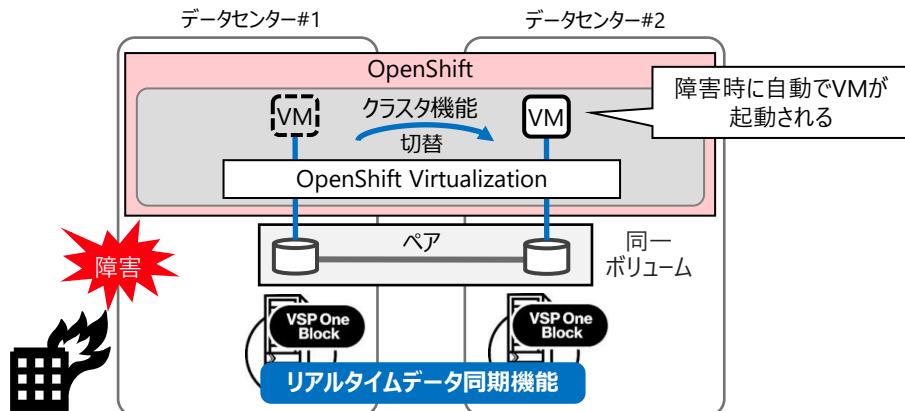
### ポイント1 移行迅速化

「ストレージコピー連携機能<sup>\*2</sup>」を用いて、日立ストレージ経由でVMのディスクコピーをすることにより、VMの移行時間は約3時間から17分(約1/10)となり<sup>\*3</sup>、**業務停止時間を大幅に短縮可能**



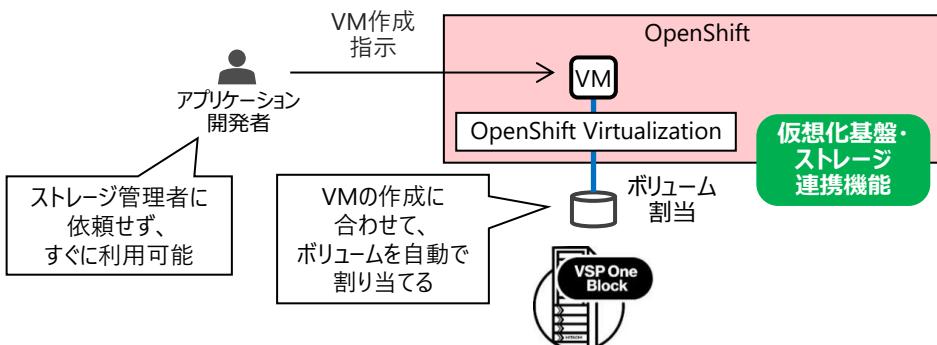
### ポイント2 業務継続

ストレージを異なる拠点に設置して、「リアルタイムデータ同期機能」により、障害時は別サイトへ自動フェイルオーバーでVMを復旧し、お客様はすぐに業務再開が可能



### ポイント3 管理効率化

「仮想化基盤・ストレージ連携機能<sup>\*4</sup>」があれば、アプリケーション開発者はVMにボリュームを自動で割り当てることができ、**ストレージ管理者へ依頼することなく、すぐに利用可能**



\*2 国内では2026年以降に提供開始予定 (2025年11月時点では検証で利用可能) \*3 1TBの単一VMでの比較 \*4 国内では2025年12月より提供開始予定

- Red Hat、Red Hat OpenShift、およびRed Hatロゴは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.およびその子会社の商標または登録商標です。
- 記載の仕様は製品の改良などのため予告なく変更することがあります。製品の色調は、実際のものと異なる場合があります。
- 本ソリューションを海外から利用される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業または以下よりお問い合わせください。

#### 製品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

- 製品情報サイト  
<https://www.hitachi.co.jp/storage/>
- インターネットでのお問い合わせ  
<https://www.hitachi.co.jp/storage-inq/>
- 電話でのお問い合わせはHCAセンターへ  
0120-2580-12 受付時間 9:00～12:00、13:00～17:00 (土・日・祝日・当社休日を除く)



製品情報サイトには  
QRコードからも  
アクセスいただけます。

日立ヴァンタラ株式会社

〒244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地  
Tel: 045-870-1533  
[www.hitachivantara.com](http://www.hitachivantara.com)

2025.11

Copyright © Hitachi Vantara, Ltd. 2025.  
All rights reserved.